

実践に係るレポート(余市紅志高校 千葉和代)

【高等学校における特別支援教育】

①取り組むきっかけ等

前任校が特別支援学校(高等養護学校)であり、その経験を踏まえて生徒の実態を見たときに支援の必要性を感じたことがきっかけとなった。

②取組を通じて、達成したこと、満足したこと、うれしかったこと

生徒の変化を感じた時に、達成感や喜びを感じる。面談をしている中で目に見えての変化もあるが、3年間を通して大きく変化する生徒を見ると、さらに強く感じる。

③取組を進める上で、苦労したこと

本人の困り感と保護者の困り感が一致しておらず、取組の必要性が保護者になかなか伝わらない時に、手詰まり感があつた。

④取組を進める上で、日頃から心がけていること

本人の観察、本人との面談、保護者との連携、教職員同士のコミュニケーションを心がけている。

⑤今後の取組について

必要な生徒に必要な支援を届けることができるよう、今後も観察や連携を深めていくと同時に、研修の機会を得て、研鑽を深めていきたい。

【部活動の指導充実】

①取り組むきっかけ等

学力面や人間関係で行き詰まりを感じている生徒に、活躍の場を作ることができないかと感じたことがきっかけである。取組を進めるうちに、教室とは違う生徒の一面を見たり、外部との関わりを通じて経験の場を広げる可能性を実感したりして、必要性を一層強く感じた。

②取組を通じて、達成したこと、満足したこと、うれしかったこと

表現したいことが伝わったこと、上演に関わる準備がスムーズに行えるようになったことも達成感があり嬉しいが、これらの活動に生徒が夢中になって取り組む様子を見たときや、生徒自身が得たものを後輩に継承していく様子を見たとき、「部」のあるべき姿や「部」でしか得られない良さを見た思いがして、大きな喜びを感じた。

③取組を進める上で、苦労したこと

上演が多くなればなるほど、連絡調整等、膨大な準備作業が必要になる。日常の業務と合わせて部活動の作業を行うことが時間的にも体力的にも辛かった。

④取組を進める上で、日頃から心がけていること

顧問自身が多く演劇や芸術を鑑賞し、さまざまな方法を提示できるようにすること。部活動を通して何を不得ていくのか、「部」や「個人」の目標が明確であること。

⑤今後の取組について

これまでに培ってきた部の流れや人々の関係を大切にしながら、現部員がのびのびと表現活動を行うことができるよう、今後も活動していきたい。